

着物を媒体とした、 ビジネスコンテンツ創造への挑戦

有限会社モリ・コミュニケーションズ

今から5年前室町に於ける「振袖商戦」に大きな革新が起こった。それがモリ・コミュニケーションズ（以下モリコミ）の製作した「着たくなる日」という振袖BOOKの出現である。

室町問屋がこぞって小売店に提案する「振袖パンフレット」という商材。モリコミスタッフ達はそのパンフレットを見ながら、果たして19、20歳の女の子はこのパンフを見て振袖を購入したいと思うのだろうかという疑問を持った。振袖を着用する世代の感覚と製作者側の感覚が全くずれている。そういう風にも考えた。

その時、全く世に受け入れられるかどうか分からない、提案先すら一切無い状況にも関わらず、彼らにとって19歳の女の子が面白いと思うであろうパンフレットをとにかく創り始めたというのがスタートだった。

それから5年「着たくなる日」は市場の圧倒的な支持と、狙い通りのユーザーからの高い反響の下、今では全国の振袖専門店約80店舗まで参加先も増え、現在も新しい創造を提案し続けている。振袖そのものはどの問屋のパンフも一緒の商品である。その振袖にどんなデコレーションを施し、受け手の心動く媒体を製作できるか？常に彼らはそれだけを考える。そして着物を媒体とし出来る可能性を広げてゆく。店舗デザイン、グラフィックデザイン、WEB製作、雑誌編集・出版と……。

「問屋さんは既に<物>を右から左に動かすだけで、口銭を取れる様な甘い時代では無くなったと思います。そこにある商材を『売る』為に、我々の様な製作会社を利用するか、若しくは自社で出来る精一杯の努力や、アイデアの付加無しにお客様よりの支持は頂けないでしょう。」

代表である森昌史氏はその言葉のもと、あらゆる「着物」とユーザーを繋ぐ媒体をクリエイイトする。とにかく何よりも大切な事は、ユーザーに支持されるべき媒体を創造する為に……。

この様に語ると彼は「才能のかたまり」の様に思えるが、彼自身は全くそうでは無いと話す。「私は写真も撮れないし、コピーライティングも出来無い。勿論イラストレーターすら触れなければ、CADなんてちんぷんかんぷんです(笑)。ただ私の周りには尊敬すべき優秀なクリエイターが本当に沢山居てくれ、そんなクリエイターからクリエイターへと人の輪が広がってゆくんです。

私は自分の頭に浮かんだ物やしたい事がある時、その仕事のイメージに応じ、写真は〇〇カメラマンで、グラフィックは〇〇さんだなとチョイスし、あとはイメージのディスカッションをするだけで、多様な才能を持っている素晴らしい創造者達が見事に最高のクオリティで私のプラン・イメージを具現化してくれているだけなのです。」と語る。

「基本プランを創造・プランニングし、その仕事に一番適した人材をコーディネートする。」それが、彼のプロデューサーたる所以の全てであろう。オーケストラを率いるコンダクター(指揮者)、森氏を一言で表現するならばそれが最もふさわしいのかも知れない。

【モリ・コミュニケーションズ】事業概略

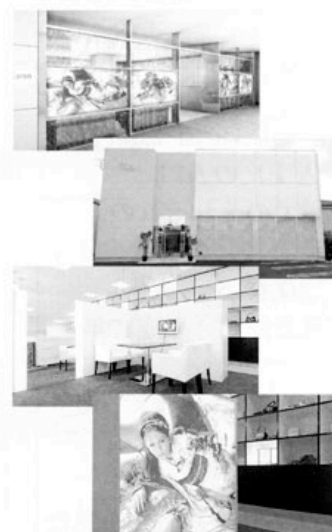
【創作内容】 各種雑誌・パンフ・カタログ編集・製作／店舗デザイン／WEBデザイン
／DVD製作・編集／グラフィックデザイン／各種業態プランニング



編集
きもの
マガジン

『お洒落な振袖BOOK
着たくなる日』

- プロデューサー森昌史の原点がここに集約されている。刊行5年目を迎えた「振袖ライフ提案マガジン」だが、「BEAMS」「SHIPS」といったアパレルブランドへのオファーから撮影コーディネイト、シチュエーションのセッティングに至るまで、自ら東奔西走して製作する代表的作品。
- 「浴びた非難の数が多いほど、完成後の反響・支持も大きい」創刊号はそれを実感させてくれた。その内容は一年ごとに充実し、時代を独走し続ける。



店舗
呉服店
「この店で買い物をしたい」という付加価値を提案。

呉服店舗とヴィトンショップは、お客様からすれば何ら差は無い。

- 基本デザインから、ディスプレイ、アピール方法に至るまで幅広くお客様の相談に呼応・対応。
- 他にも、WEBデザイン、DVD製作、DM・グラフィック製作等、既存の呉服販促という枠にとらわれない、自由で、時代に即したプランニングで「着物」を最も生かす最先端の媒体を製作。

【創作コンセプト】『スタイリッシュ・クール・艶』

モリ・コミュニケーションズの創造する全ての媒体は、スタイリッシュやクール、艶というファクターを重要視し製作される。そしてそのファクターこそ「女性を美しく見せる<着物>に関わる媒体製作」に必要な不可欠な要素だと考える。

【製作ポリシー】『全ての製作物には必ず意図がある』

クライアントより仕事を頼まれる場合、それぞれのクライアントなりに、上手く表現出来なくとも「こんな風になりたい、あんな風になりたい。」という漠然とした思いは必ずある。その漠然とした思いを汲み取り、そこに明確な「製作意図」を持たせ、クライアントを満足させる事がモリコミの仕事であり、そこに「意図」を見出せない仕事をモリ・コミュニケーションズは行わない。

エキサイティングなクリエイター達と、あぁだこうだと喧嘩もしつつ、とにもかくにも女性が「着物」と言う衣装を、美しく、格好良く、楽しく、そして「着てみたい」と思って貰える新しい創造が続けられる事がモリ・コミュニケーションズの喜びであり、楽しみでもあるのです。

有限会社モリ・コミュニケーションズ
TEL075-341-1339 <http://www.moricomi.jp>